

# 彩の歳時記

平成二十五年 十月

白袴しろたゑの 袖着そなふ  
手肘(たこむら)に 蛇かきつき

その蛇を 蜻蛉早咋ひ

かくの如 名に負はむと

そらみつ倭の国を蜻蛉島とふ

古事記より

秋の虫の代表「トンボ」は、世界で約5000種、うち日本に200種

近くが分布しています。素早く飛び、害虫を捕え、前進のみで

退かないところから「不退転」の精神を持つ「勝ち虫」、

縁起物として武士に喜ばれ、兜や鎧、刀・印籠等の意匠に

用いられました。とんぼは、古くは秋津(あきつ)と呼ばれ、

日本の異称に秋津島があります。秋津=蜻蛉=とんぼ

『日本書紀』に、山頂から国見をした神武天皇が「あきつの

聲咄(となめ)の如し」(トンボの交尾のようだ)と述べた事に由来します。

『古事記』には、雄略天皇の腕にたかった蚊を食い殺した「とんぼ」の話があり、そこで

「倭の国を蜻蛉島」と呼んでいます。とんぼは、古代から水田耕作に不可欠な貴重な益虫で、

弥生時代の銅鐸にも刻記。昨今、減反などから、とんぼを観る機会が減少、絶滅が危惧されます。

水耕で保たれた水も、洪水・土砂崩れという形で警鐘を。とんぼ回帰の自然を取り戻したいものです。



## 十月の異称

神無月 かんづつき

全国の神様が、縁結びの相談のため出雲大社に集まり。各地の神様が留守に。

## 十月の暦

一日 都民の日 東京都管理の博物館・美術館・庭園等は、同日に限り入場料を無料

衣替え 平安時代に始まる風習。江戸時代ごろから、六月一日と十月一日に、明治以降の官庁

企業・学校等もそれに従い、現在に至っている。

八日 寒露 かんろ 【二十四節気】草花に冷たい露が宿り、秋の長雨が終わり、秋も深まり始める頃。

## 十二日

芭蕉忌

時雨忌(時雨の句をよく詠むことに因る)、桃青忌・翁忌。俳聖・松尾芭蕉【1644～1694】

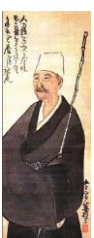
の忌日。蕉風(しょうふう)と呼ばれる芸術性の高い句風を確立し、後世、

世界的にも知られる日本史上最高の俳諧師の一人。「蕉風(正風)俳諧は

万葉集の心なり。されば貴となく賤となく味ふべき道なり」とは芭蕉不滅の名言。

秋深き 隣は何をする人ぞ

辞世の句は「旅に病んで夢は枯れ野を駆けめぐる」。



十四日 体育の日 1966～1999年は十月十日の東京オリンピック開会の日。2000年より第二月曜日に。

十七日 十三夜 粟名月とも呼ばれる。「後の月見」といい、中秋の名月が中国伝来であるのに

対して日本独特の行事。中秋と十三夜の両方の月を同じ場所で眺めるとよいと言われる。

二十日 美智子皇后陛下誕生日。1934年生まれで79歳になられる。日本赤十字社名誉総裁、

国際児童図書評議会名誉総裁。お印は「白樺」



二十三日 霜降 そうじょう 【二十四節気】 秋が一段と深まり、朝霜が見られる。日が短くなったことを実感。

三十一日 ハロウィン 西ヨーロッパ古代の(異教・多神教)にもとづく死者の祭、および

収穫祭。悪霊や魔女を除けるために仮面を被る。カボチャをくりぬいた中に蠟燭を立て、

お化けに仮装した子供達が近所の家を訪ね「馳走をくれないと悪戯するよ」と唱える風習がある。



## 十月の歌

赤とんぼ

戦後の「群馬交響楽団」草創期の実話を元にした1955年の映画『ここに泉あり』

の挿入歌で、広く親しまれるように。主演は、岡田英次・岸恵子。山田耕筰のメロディーは、シューマン

の『序奏と協奏的アレグロ ニ短調 op134』の中で18回繰り返し返されるフレーズ

に酷似している。作詞の三木露風【1889～1964】は北原白秋と並び「白露時代」

と称された近代詩人・童謡作家。兵庫県、たつの市生まれ。

曲の山田耕筰【1886～1965】は、日本語の抑揚を活かしたメロディーで多くの

作品を残し、日本初の管弦楽団を造るなど日本における西洋音楽普及に努めた。

【日本人の好きな童謡ベスト1】の名曲。

赤とんぼ

一、夕焼小焼の 赤とんぼ  
負われて見たのはいつの日か

二、山の畑の 桑の実を  
小籠に摘んだはまぼろしか